

平和とは

伊勢原中学校 清水 杏

ゴールデンウィークを過ごす私の周りにはどこか遠くへ旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、楽しいニュースであふれています。私も家族と出かけたり、食事に行ったり、親戚に会いに行ったりと幸せな時間を過ごしていました。そんな私が平和作文を書くことになり、平和とは何なのかということについて考えました。テレビのニュースでもゴールデンウィークの楽しいニュースとウクライナとロシアの戦争など、同じ世界で起きているとは思えないようなニュースが入り交じっています。明らかに私は楽しいニュース側の世界にいます。戦争のニュース側の世界に悲しみは覚えませんが、実感を持つことはできません。実感が持てないのも、私には何もできないと思い、考えるのをやめてしまっているからだと思います。全ての人が平和に過ごしてほしい、戦争をなくしたいと思っているが、自分はどうしたらいいのか、何ができるだろうか。それが私にはわかりません。戦争のニュースを見て悲しまない人はいないはずです。誰だって平和な暮らしをしたいと望んでいるはずなのにどうして戦争はなくなるのでしょうか。戦地にいる人は平和について考えることはできません。平和について考える時間を与えられている私たちが考えていかななくてはいけないはずです。そのためにもたくさん学ぶ必要があると思います。

日本は原爆を落とされた唯一の被爆国です。原爆の恐ろしさを一番よく知る国であり、戦争から敗戦に至るまでの苦しみを経験した日本は戦争や核の恐ろしさを世界に伝えていく必要があると思います。昔日本でも、戦争の当事者がたくさんいたが、何十年もたつと今の日本に当時の戦争のことを知る人は少なくなっていってしまいます。戦争が終わった後も放射線などにより多くの人が苦しみました。戦争はどんな理由があってもダメだという心を忘れてはいけません。被爆地である広島の実爆ドームが当時のことを物語っていますが、私たちがもっと広島や長崎について学ばなければいけません。恥ずかしながら、私も日本で起きた戦争や原爆について詳しく知らない

若者だということに気づかされました。日本からすると、原爆は多くの人にたくさんの苦しみを一生涯与え続けた「悪」でしかありませんが、一方、原爆によって戦争を終わらせ、たくさんの命を救うことができたという考えもあることに私は驚きました。自分の家族、自分の国が平和であってほしいと願うのは当たり前のことであり、その平和が脅かされるとなれば争いが起きてしまいます。争いは互いの国の主張のぶつかり合いでもあり、和解するのはとても難しいです。武力のぶつかり合いにより、やられたらやり返すという連鎖が終わりを迎えることはなく、苦しみは続いていきます。原爆の恐ろしさを一番知っている日本だからこそ自分たちが味わった苦しみを他のどの国にも遭わせてはいけないと平和への願いを込めて声を大にして訴えていかなければいけないのではないのでしょうか。私たちは今、たくさんのことを学んでいます。が、もっと戦争や平和について学ぶ機会を設ける必要があると思います。平和でなければ学びたくても学ぶこともできません。過去から学び、平和な日々を未来につなげていく努力をしていくことがこれからの私たちにとって何よりの課題だと思います。当たり前ではないこの日々に感謝してこれから生きていきたいと思っています。